



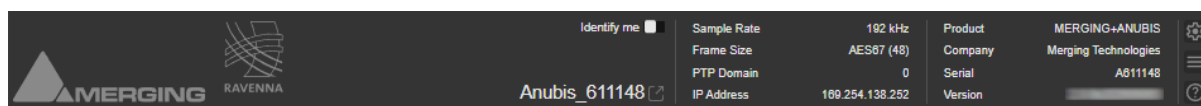
Merging RAVENNA Advanced Pages User Guide V2

アクセス方法.....	3
STATUS TOP BAR.....	3
• Product, Company, Serial, Version.....	3
• App Settings.....	4
• System Menu.....	4
◦ Debug.....	4
• Advanced Pages Documentation.....	5
GENERAL.....	5
Device.....	5
Audio Configuration.....	5
Session Sinks Global.....	6
Network.....	6
PTP.....	7
General.....	7
Graph.....	7
Master.....	8
Status.....	9
ASIO CLOCK.....	10
SOURCES & SINKS SELECTION.....	10
SOURCES.....	11
Source Configuration.....	11
Channels.....	13
Sink.....	14
Sink Configuration.....	14
Channels.....	15
Statics.....	16
Session Info.....	16
IO ROUTER.....	18
NMOS.....	19
NMOS General Settings.....	19
Registration Server.....	20
Registration Server Status.....	20
HOME.....	21
STATIC DEVICES LIST.....	21
Appendixes.....	22
PTP Priority value.....	22
Auto-Unicast feature.....	22
Connections Color Convention.....	22
Session Sources error codes.....	22
Session Sinks error codes.....	23
Incoming/outgoing RTP range 受信/送信RTP範囲.....	25

アクセス方法

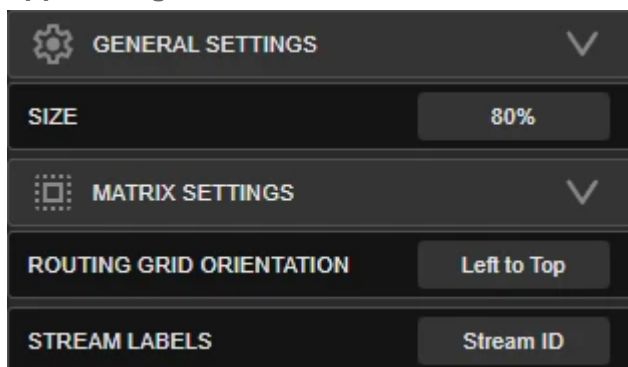
1. IPアドレスを使ったアクセス方法
 - a. Hapi MKII / MKIII / Anubis / MT48
ブラウザでデバイスIPに続けて [/advanced/index.html](#) と打ち込む
 - b. VAD / ASIO / MAD
ブラウザでデバイスIPに続けて [:9090](#) と打ち込む
2. MT Discovery でアクセスする方法
デバイスを右クリックして **Open Advanced** を選択する
3. ANEMAN でアクセスする方法
デバイスを右クリックし **Open Advanced** を選択する
4. Merging Audio Device パネル, Virtual Audio Device パネル でアクセスする方法
デバイスを右クリックし **Open Advanced** を選択する

STATUS TOP BAR



- **Identify me**: ユーザーがユニットをすばやく識別できるように視覚的なフィードバックを提供します。
チェックボックスをオンにすると:
 - AnubisはTFTディスプレイにデバイス名を表示し、ホームボタン(Mergingロゴ)を点滅させます。
 - HapiMkIIとMKIIIは、前面パネルのMergingロゴを点滅させます。
- **Device Name**: Zeroconfデバイス名
デバイス名にマウスカーソルを合わせるとホスト名が表示されます。
-  ネットワーク上で検出された 他の Merging 対応 RAVENNA/AES67 デバイスにアクセスします。
- **Sample Rate, Frame Size, PTP Domain, IP Address**
デバイスの現在の状態。これらの設定は、**General Settings** メニューで変更できます。
- **Product, Company, Serial, Version**
デバイスの情報

● App Settings



- **Size:** Appの表示サイズ(60-120%)
- **Routing Grid Orientation:** ルーティングマトリックスの軸(ソース/シンク - シンク/ソース) (左から上 - 上から左)の変更
- **Stream Labels:** Source - Sink の番号付け(ストリームID - チャンネルID)

● System Menu

- **Configuration File:** デバイスの設定ファイル(Preset ファイル)の Download / Upload : Save / Load
- **Cinnabds**
 - Reboot: デバイスの再起動
 - Reboot to Factory: 工場出荷時に設定して再起動
 - Restart: デバイスの再起動
 - Save: 現在の設定の保存
注意: デバイスによって幾つかのコマンドは表示されません。
- **Debug**
 - **Get Report:** デバッグレポートを生成し、保存します。
レポートが自動的に保存されない場合は、Webブラウザがダウンロードをブロックしていないことを確認してください。
 - **Get Device Status:** デバイスステータス(SysLog)を表示します。
 - **Get Device Engine Status:** デバイスエンジンを表示します。 - ZMANベースのデバイスのみ
 - **Toggle Transparency check:** (Merging RAVENNA ASIO driver / Merging Audio Device driver のみ) 最初の出力チャンネル(Channel0)に透過性チェック信号を送信します。

- **Advanced Pages Documentation**



<https://merging.atlassian.net/wiki/spaces/PUBLICDOC/pages/1568047115/Merging+RAVENNA+Advanced+Pages+User+Guide+V2> (英文)へのリンク

GENERAL

Device

DEVICE	▼
NAME	CoreAudio Studio A
NAME USER DEFINED	☒
LOCATION	Studio A

- **Name**: ユニークな Zeroconf でのデバイスネームです。他のデバイスは この名前で見ます。再起動無しで変更できます。
- **User Defined**: ユーザーが設定した名前とデフォルトのデバイス名を切り替えます。
- **Location**: 情報用テキスト (64文字まで)

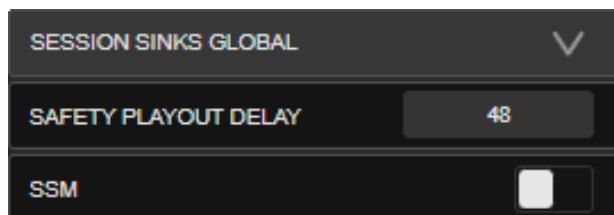
Audio Configuration

AUDIO CONFIGURATION	▼
SAMPLE RATE	48 kHz
FRAME SIZE	AES67 (48)

Sample Rate: 現在のサンプルレート (44100-48000-88200-6900-176400-192000-352800-384000)

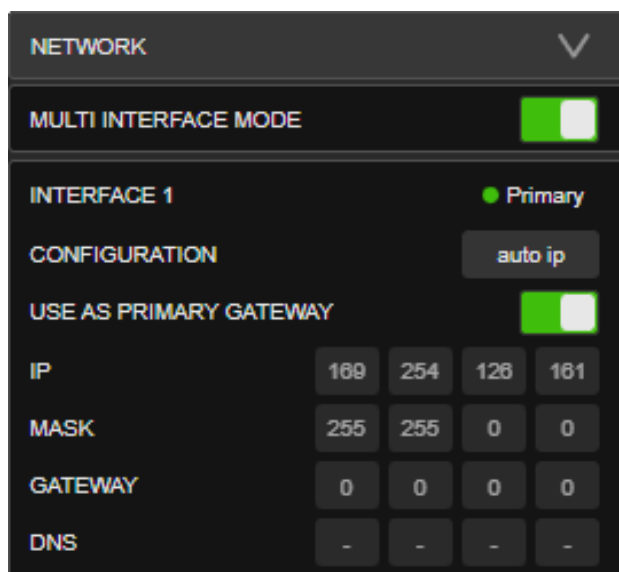
Frame size (@1Fs): 現在のフレームサイズ (64 - AES67/48 - 32 - 16 - 12 - 6)

Session Sinks Global



- **Safety Playout Delay**: 再生遅延。この値は常に1Fs(44.1～48 kHz)におけるサンプル数として示されます。例えば この値が 48 の場合、2Fs(88.2～96 kHz)では 96、4Fs(176.4～192 kHz)では192となります……
- **SSM**: Source-Specific Multicast(IGMP v3が必要)
このオプションを有効にする場合は、ネットワークスイッチが IGMP v3 をサポートし、適切に設定されていることを確認してください。

Network



	169	254	128	161
IP				
MASK	255	255	0	0
GATEWAY	0	0	0	0
DNS	-	-	-	-

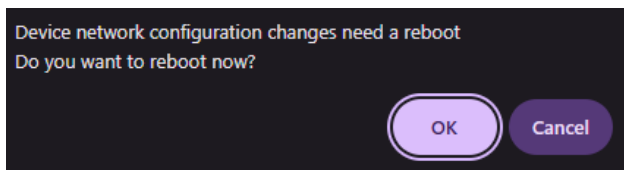
- **Multi-interface mode**: ST2022-7モードを有効化／無効化します。この機能をサポートする Merging デバイスにのみ適用されます。

INTERFACE 1 - 2

注: デバイスおよびファームウェアのバージョンによっては、INTERFACE 1 のみが利用可能な場合があります。

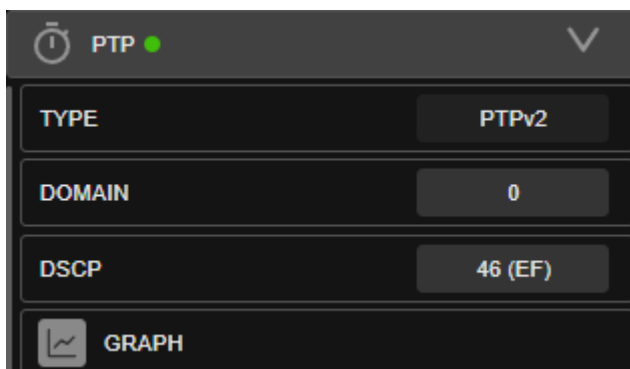
- **Link Color**: ステータス アップ(緑)／ダウン(赤)
- **Configuration**: IPv4アドレスの設定 (AutoIP, DHCP, Static)
- **Address - NetMask - Gateway - DNS**: 上記 Configuration が Static の場合にのみアクセス可能です。変更を適用するには再起動が必要です。

注: ネットワーク設定を変更するには再起動が必要です。必要場合は、ユーザーに自動的に通知されます。



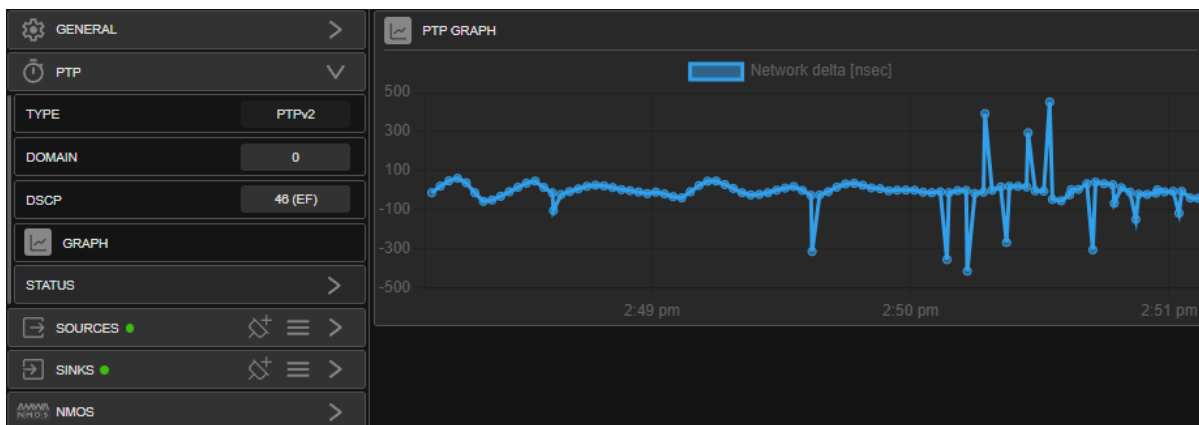
PTP

General



- **Status:**
 - Green: Locked
 - Orange: Locking
 - Red: Unlocked
- **Type:** 情報のみ
- **PTP Domain:** 特定のPTPドメインを定義できます。同じネットワーク内で複数のPTPマスターが必要な場合に使用します (Merging デバイスとプログラムのデフォルト値は 0)。
- **DSCP:** PTP DSCP (46-EF : PTP AES67 / 48-CS6 : PTP RAVENNA / 56-CS7)

Graph



- Graph はスレーブデバイスでのみ表示されます。

- ASIO デバイスには表示されません。
- 青のカーブ は デバイス制御アルゴリズム適用前の、現在のマスターPTPクロックに対するネットワークの差分を示します。
- PTPグラフは固定することも、固定を解除することもできます。
 -  Pinned
 -  Unpinned

Master

MASTER	
MANUAL	☐
PRIORITY 1	127
CLASS	133
ACCURACY	32
PRIORITY 2	128
GMID	30-D8-59-FF-FE-01-E0-08
SLAVE ONLY	☐
DELAY MECH	E2E
ANNOUNCE	2s
SYNC	0.125s

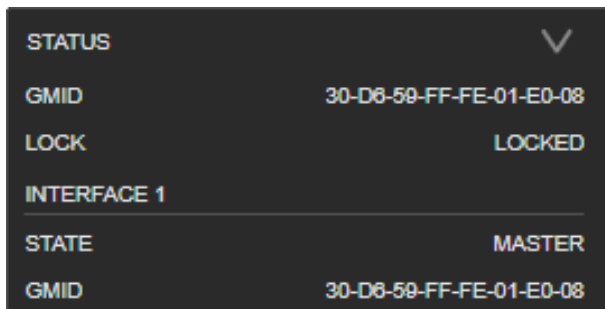
PTPの設定を変更するにはまず“Manual”のチェックボックスを変更する必要があります。

Note: Master の設定は PTP Master に設定できないデバイスには表示されません。

- **Priority 1** は メインのプライオリティ値
- **Class:** デバイスのクラス。この値は変更するべきではありません。
- **Accuracy:** 変更できません
- **Priority 2** は PTP Master を選出できない場合にのみ使用されます。
- **GMID:** 現在のグランドマスターID (PTPマスター)

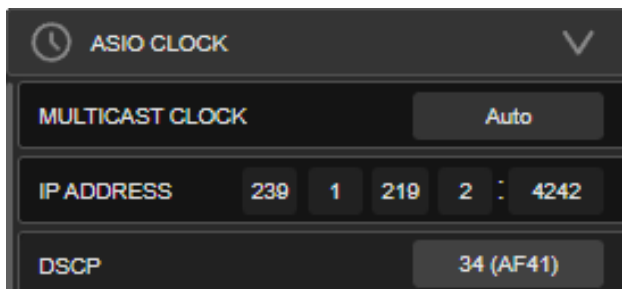
- **Slave only**: デバイスを常に PTPスレーブにします。
- **Delay Mech.**: PTPプロファイル関連 - E2 または P2P
- **Announce**: PTPプロファイル関連 - PTPアナウンス間隔(0.125 - 0.25 - 0.5 - 1 - 2 - 4 - 8 - 16秒)
- **Sync**: PTPプロファイル関連 - (0.0625 - 0.125 - 0.25 - 0.5秒)

Status



- **ASIOClock Host**: Master ASIO Clock device IP address の IPアドレス (Merging RAVENNA ASIO device でのみ表示されます)。
- **GMID**: 現在のグランドMaster ID (PTP Master)
- **Lock**: PTPにロックしている場合に表示されます (Locked -Locking - Unlocked)。
- **Interface 1-2**:
Note: デバイスとファームウェアにより Interface 1 のみの場合があります。
PTP status:
 - Master: Device は Master です。
 - Slave: Device は Slave です。
 - Listening: interface は 同期に使用されていません。
 - Disabled: interface は 接続されていません (デバイスはマスターにできません。例: MassCore デバイス)

ASIO CLOCK

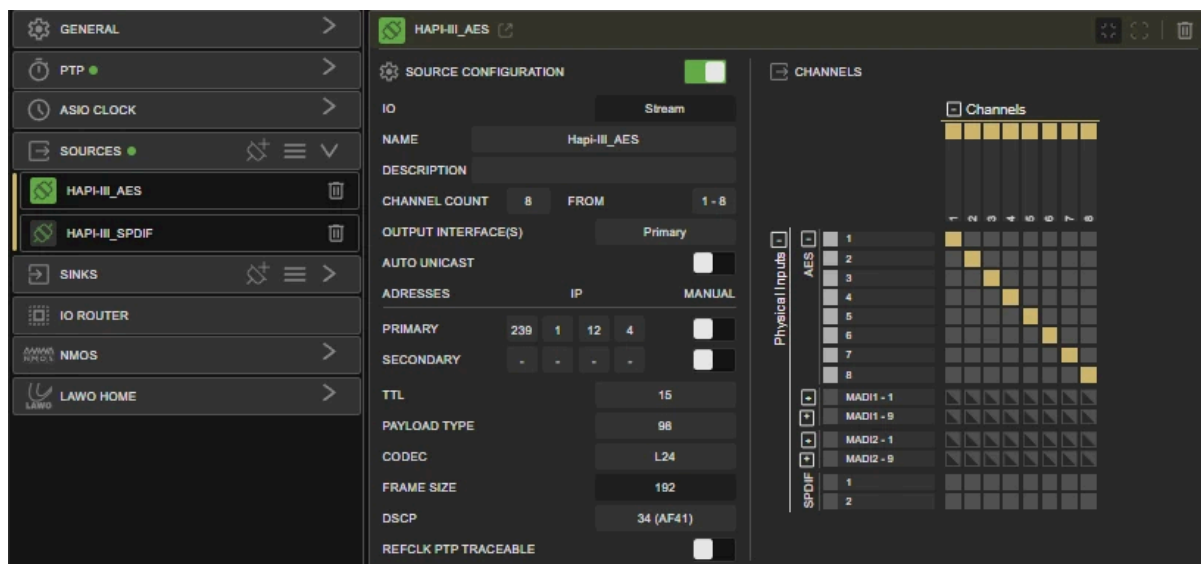


- **Multicast Clock**: マルチキャストASIOクロックの Auto / On / Off 設定 (Horus / Hapi / Hapi MK II では Setup > System メニュー内の ASIO Clock 設定、Anubis では Settings > Clock 設定と同一) **Auto** に設定すると、PTP マスターデバイス上でのみ ASIO クロックが有効になります。
- **Address**: ASIO マルチキャストクロックのマルチキャストアドレス
- **DSCP**: ASIO マルチキャストクロックの DSCP 値を 34、46、48、54 のいずれかに設定します。スイッチを使用する場合は、スイッチの **DSCP to Queue** (DSCP からキューへの割り当て) 設定において、ASIO クロックの DSCP 値が高い優先順位 (キュー) に割り当てられるようにしてください。

SOURCES & SINKS SELECTION

- Source または Sink をクリックすると 固定されます。
- 固定された Source または Sink は 単色の背景色で表示されます。
 -  Pinned
 -  Unpinned
- 複数の Source または Sink を固定すると、それらは現在のものの下に追加されます。

SOURCES



-  Create new source ボタン
-  Delete all sources - Delete selected sources ボタン
-  HAPIMKII_95381_AES Source の Status と 名前

-  Channels routing コンパクト ビュー
-  Channels routing 拡大 ビュー
-  Source を Delete

Source Configuration

-  **HAPIMKII_95381_AES** Source の Status と名前
-  Session Description Protocol 情報を表示 (SDPが必要な 3rd パーティーのデバイスに便利)
 Note: 一部のブラウザでは、SDPポップアップウィンドウを有効にするように求められる場合があります。
 Note: 2022-7モードのデバイスは、両方のインターフェースのセッションパラメータを含む2022-7 SDPを生成します。このようなSDPを2022-7以外のデバイスにロードすると、interface1のセッションパラメータのみが使用されます。
-  Enable ボタン: 選択した Source を有効にする (デフォルトは Active)
- **IO:** 物理入力を選択 (該当する場合)
- **Name:** Source の名前 (63文字まで)
- **Description:** 情報テキスト (64文字まで)
- **Channel Count:** Stream のチャンネル数
- **From:** デバイスのチャンネル数
- **Output Interface(s):** Source 出力として、Primary, Secondary, Redundant (ST_2022-7) のいずれかを選択します。
 Note: デバイスやファームウェアによっては、Primary のみが利用可能な場合があります。
- **Auto-unicast (retrieve unicast address+port from sink (RTSP))** : ユニキャスト接続用の Sink (リスナー) IPアドレスを自動的に取得します。
 この機能は Merging Technologies デバイスにのみ適用されます。詳細は [付録](#) を参照してください。
- **Addresses:** 選択した出力インターフェイスのストリーム マルチキャスト アドレス

Note: アドレスフィールドに特定の宛先ポートを手動で設定できます (例: 239.1.66.25: 9000)。

RTP Odd and Even Ports support:

奇数 RTP ポートは、ファームウェア Horus/Hapi 3.11.2.52601、ZMAN ベースの製品 (Anubis、HapiMkII、ZOEM) 1.4.4.52601、およびソフトウェア製品 VAD 3.2.2.52601、MAD 2.2.2.52601 以降でサポートされています。MassCore は現在、奇数 RTP ポートをサポートしていません。

Ports Range:

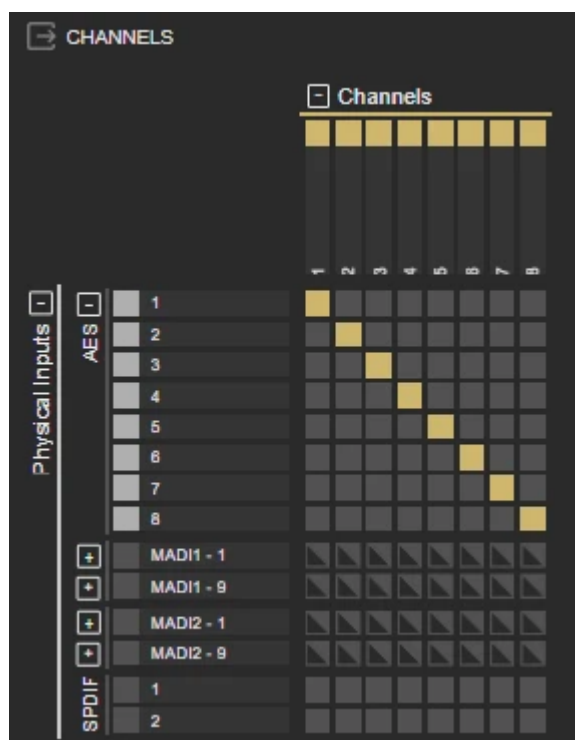
マルチキャストポート範囲: 1024~65535 (ファームウェア Horus/Hapi 3.12.5, ZMAN ベースの製品 (Anubis, HapiMkII, ZOEM) 1.5.2, ソフトウェア製品 VAD 3.2.7, MAD 2.2.8, MassCore 14.1 以降)
ユニキャストポート 範囲: 1024~32767
詳細は [Appendix section](#) をご覧ください

Note: Primary インターフェースのみが使用できる場合、Secondary のフィールドは無効になります。

-  **Manual button:** マルチキャストIPアドレスを手動で入力または変更できます。
Note: マルチキャストアドレスを手動で入力すると、手動チェックボックスが自動的に有効になります。
- **TTL:** 有効期間 (ホップ制限とも呼ばれる) - この値は変更しないでください
- **Payload type:** RTPペイロードタイプ - この値は変更しないでください
- **Codec:** L24 - L16 - DSD64 - DSD64_32 - DSD128 - DSD128_32 - DSD256 (ビットレート)。これらの値はサンプリングレートに依存します。
- **Frame size (samples):** 現在の Source のフレームサイズ
- **DSCP:** 音声DSCP (34: RTP AES67 / 46: RTP Ravenna)
- **RefClk PTP traceable:** この機能は、インターネット経由でストリームを接続する場合 (たとえば、各場所に 2 つの PTP マスター (GPS) がある場合) に便利です。これにより、異なるトレーサブル PTP マスターにロックされたデバイスとの接続が可能になります。

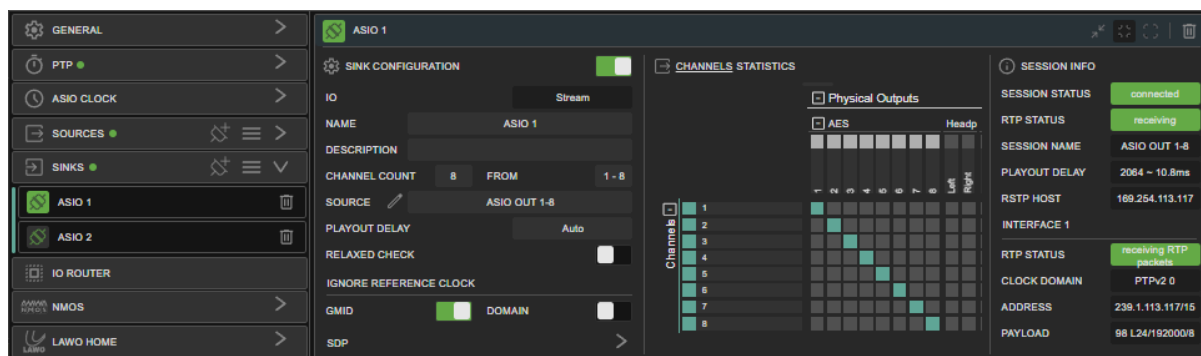
詳細については、Session Sinks セクションの *Ignore refclk GMID - accept source locked to any PTP master* を参照してください。

Channels



- **Routing Matrix:** Source でルーティングする IO を選択します。
Note: ドライバーデバイス (MAD ASIO, VAD CoreAudio, MassCore) には適用されません。

Sink



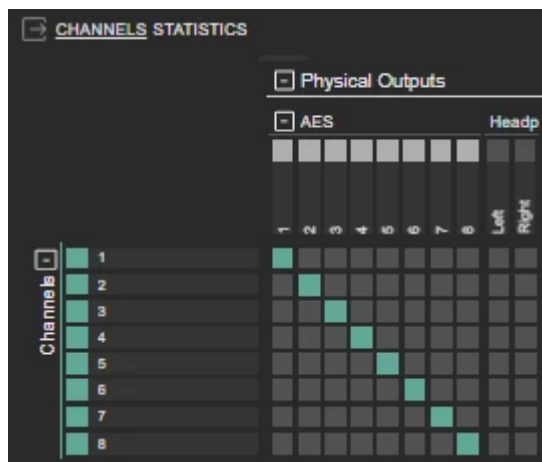
- Create new sink ボタン
- Delete all sinks - Delete selected sinks ボタン
- HAPIMKII_95381_AES Sink Status と 名前
- チャンネル ルーティングをコンパクト ビューにする
- チャンネル ルーティングを拡大する
- Sink を消す

Sink Configuration

- Enable ボタン: Sink を有効にします (デフォルトで Active)
- IO: 物理出力の選択 (該当する場合)
- Label: Sink の名前
- Description: 情報のテキスト (64文字まで)
- Channel Count: ストリームのチャンネル数
- From: デバイスのチャンネル数
- Source: Source をドロップダウン メニューで選択 (sap と bonjour のsourceが表示されます)。
- Manual: SDP を入力できるようにします。
- Playout Delay: playback 遅延 (samples)
 - Automatic delay (自動遅延はMerging Technologiesデバイスで動作します)。Merging 以外のデバイスの場合、0 に設定すると遅延はSDP a=framecount の値に基づいて計算されます。いずれの場合も フレームは時間的に同期している必要があります。すべてのデバイスは時間 0 (epoch) から整数フレームである必要があります。
 - 192(2ms) - 288(3ms) - 384(4ms) - 480(5ms) - 1024(10.67ms) - 2048(21.33ms)

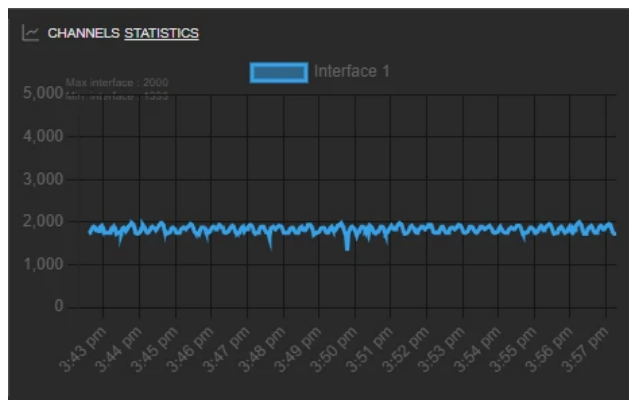
- 値はマニュアルで入力できます。
 - **Relaxed check**: チャンネル数が少ないソースを受け入れる: チャンネル数がより少ないソースへの接続を許可する。
 - **Ignore Reference Clock**
 - **GMID**: 任意のPTPマスターに同期(ロック)されたソースの受け入れ: この機能は、インターネット経由でストリームを接続する場合(例: 各拠点にGPSベースのPTPマスターを配置する場合など)に有用です。これにより、それぞれ異なるトレーサブルなPTPマスターに同期されたデバイス間での接続が可能になります。
- Session Sources ページの「*RefClk PTP traceable*」も併せて参照してください。
- **Domain**: 任意のPTPマスターに同期したソースを受け入れる(accept source locked from any PTP master): この機能は、インターネット経由でストリームを接続する場合に有用であり、異なるPTPドメインに同期しているデバイス間での接続を可能にします。
 - **SDP**: ストリームに関する詳細なSDP情報を表示します。

Channels



- **Routing Matrix**: Source でルーティングする IO を選択します。
Note: ドライバーデバイス (MAD ASIO, VAD CoreAudio, MassCore) には適用されません。

Statics



- グラフは、選択されたシンクの先行時間(μs単位)を表示しています。

Session Info

i SESSION INFO	
SESSION STATUS	connected
RTP STATUS	receiving
SESSION NAME	ASIO_54
PLAYOUT DELAY	1040 ~ 10.8ms
RSTP HOST	169.254.113.117
INTERFACE 1	
RTP STATUS	receiving RTP packets
CLOCK DOMAIN	PTPv2 0
ADDRESS	239.1.113.117/15
PAYLOAD	98 L24/96000/8

- **Session Status**
 - **Initializing**: Sink が作成され、接続するための Source 情報を待っています。
 - **Started**: Sink が Source への接続を試みています。
 - **Connected**: Sink が Source に接続しました。
 - **Muted**: Sink は Mute されています - 考えられるエラーについては [下記を参照](#)してください。
- **Global RTP Status**:

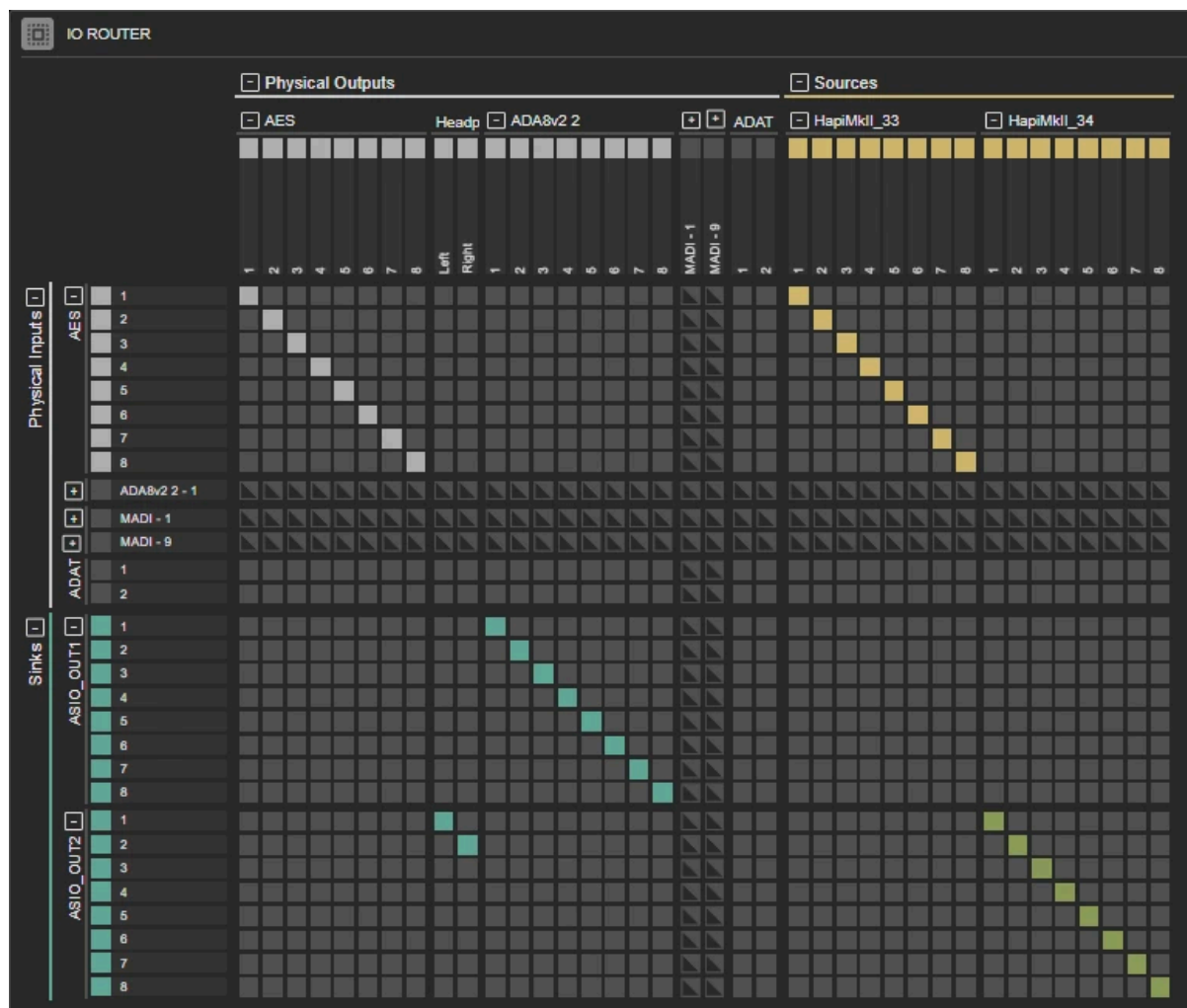
2022.7 モードでは グローバル TRP ステータスには両方のインターフェースのステータスが表示されます。2022.7 モード以外では グローバル TRP ステータスはインターフェースのステータスと同じになります。

 - **Recieving**: 受信中

-
- **Muted**: ストリームはミュートされています。詳細については、インターフェースRTPステータスを参照してください。
 - **Degraded**: 2022.7 モードのみ - インターフェースの 1 つが RTP パケットを正しく受信していません。
 - **Session name**: SDPで決められます (通常 Source name と同じ)。
 - **Playout Delay**: 選択されたシンクの現在の再生遅延 (サンプル数およびミリ秒)
 - **RTSP Host**: 接続された送信元IPアドレス
 - **Interface 1-2**
Note: デバイスとファームウェアによっては、インターフェース1のみが利用可能な場合があります。
 - **RTP Status**: 接続ステータス (インターフェースレベル)
 - Receiving RTP packets
 - Wrong RTP sequence id
 - Wrong RTP SSRC
 - Wrong RTP SAC
 - Wrong RTP payload type
 - Stream has been muted
 - All Streams have been muted (i.e. ST2022-7)
 - Some Streams have been muted (i.e. ST2022-7)

考えられるエラーについては [下記を参照](#)してください。
 - **Clock domain**: PTPクロックタイプとドメイン
 - **Address**: 選択された Sink のマルチキャストIPアドレス
 - **Payload**: Payload / Codec / Sampling Rate / Number of channels

IO ROUTER



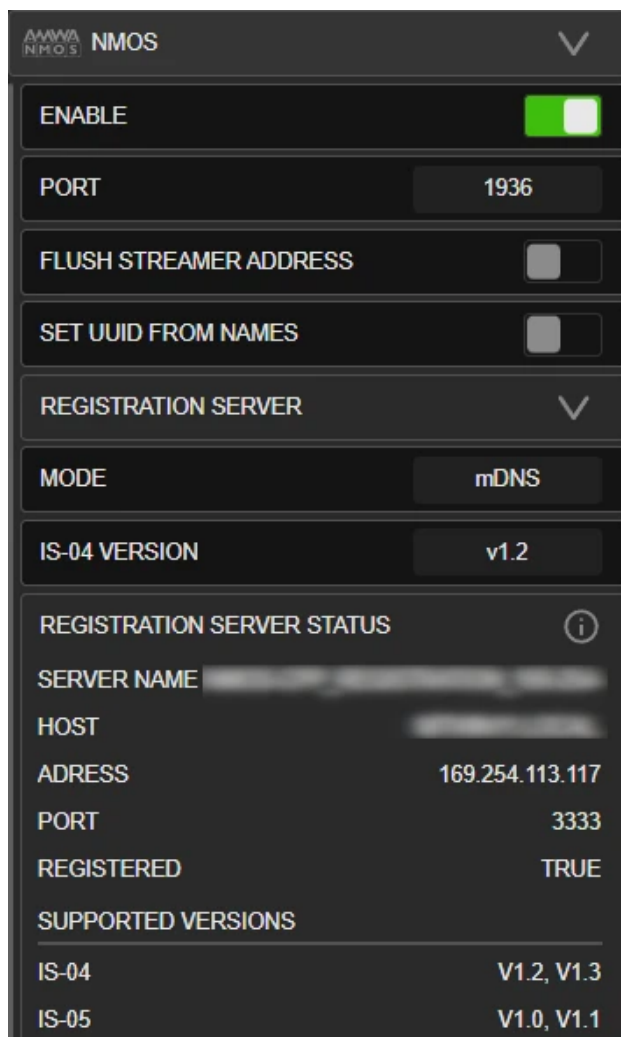
内部デバイスルーターのI/Oを接続できるようにします。

IOルーターは固定することも、固定を解除することもできます。

-  Pinned
-  Unpinned

Note: チャンネル数が8未満のグループは統合できません。

NMOS



NMOS General Settings

- Enable:** ポートと登録サーバーの設定に従って NMOSクライアントを enable/disable します。
Note: 設定にアクセスするには、NMOSを無効にする必要があります。
- Port:** デバイスNMOS通信ポート
Note: 一部のポートは Merging デバイスで使用されているため、これらのポートはNMOSには使用できません。
 Anubis, Hapi MKII, Hapi MKIII, MT48: 80, 81, 8080
- Flush streamer address on disable:** ストリームが無効化されたときにストリーマーアドレスをクリアします。このオプションは、一部のNMOSサーバーで役立つ場合があります。
- Set UUID from Names:** 名前から一意のIDが生成されます。名前/UUIDを変更した場合は、デバイスの再起動が必要です。

Registration Server

- **Mode**: Registration Server コミュニケーション モード:

mDNS (Bonjour): Bonjour サービスを使用して登録サーバーに自動的に通信します (サーバーは Bonjour サービスで広告する必要があります)。

Search domain: 検索ドメインを指定する必要があります。

Primary ネットワーク インターフェイスに関連付けられた検索ドメインが Suggested (推奨) として表示されます。

このモードは、組み込みデバイスではまだサポートされていません。

Static Address: アドレス フィールドで指定されたアドレスを使用して登録サーバーを見つけます。これは現在、NMOS 登録サーバーとの通信を確立するための推奨される最も一般的な方法です (Sony NMOS CPP, Riedel NMOS など)。

Registry Less: NMOS 登録サーバーなしでデバイスの NMOS ノードをアクティブ化します。

- **Address**: Mode が Static Address に設定されている場合、サーバーの IP アドレスとポート(<ip address>:<port number>)を入力できます。
- **Seach Domain**: Mode が Search domain に設定されている場合、ドメイン (ユニキャストDNS)を入力できます。
その他の Mode では、このフィールドには通信が確立された場合にのみ情報が表示されます。
- **IS-04 Version**: V1.2 - V1.3

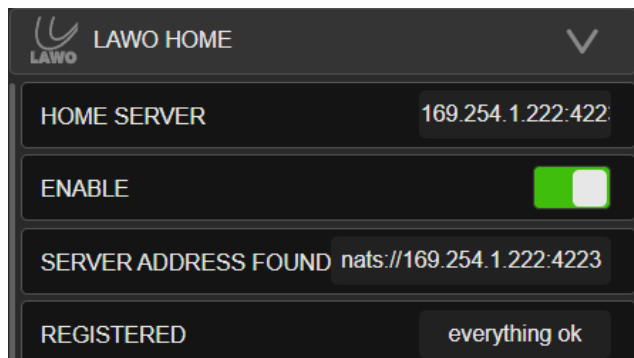
Registration Server Status

このセクションでは、登録サーバーの状態情報を提供します。

Note: 現在サポートされているのは、NMOSノードAPI (IS-04) V1.2/1.3 および NMOS接続API (IS-05) V1.0/1.1です。

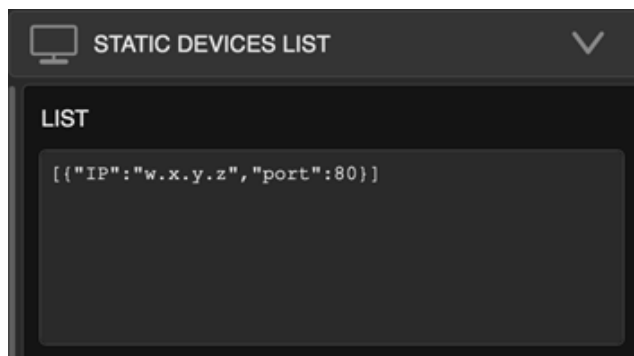
- **Server Name / Host**: サーバー (DNSまたはmDNS)によって提供されます。Mode が Static Address に設定されている場合、このフィールドは空のままになることがあります。
- **Address / Port**: サーバーのIPアドレスとポート番号。
- **Registered**: 登録サーバーに接続できる場合、Trueと表示されます。

HOME



- **Home Server**: NATSサーバーのアドレス(または、Home Server のIPアドレスとポート番号を入力することも可能です)。
Note: 設定にアクセスするには、HOME を無効にする必要があります。
- **Enable**: Home クライアントを有効または無効にします。
- **Server address found**: Home Server フィールドに基づいてサーバーアドレスが見つかりました。
- **Registered**: 現在の接続の状況

STATIC DEVICES LIST



Virtual Audio Device (VAD) のみ (V3.2.0.50895 以降)

STATIC DEVICES LIST 静的IPアドレスとポート(JSON形式)を持つデバイスを宣言できます。この機能は、Bonjourが使用できない環境(ルーターの使用など)向けに設計されています。

宣言されたデバイスは、その後VADパネルに表示されます(オンラインの場合はそれぞれのアイコン、オフラインの場合は汎用アイコンが表示されます)。

eg. [{"IP": "192.168.1.99", "port": 80}, {"IP": "192.168.1.124", "port": 80}]

Appendixes

PTP Priority value

1 が最高優先度、255が最低優先度です。

Merging デバイスは、PTPマスターとして設定されている場合はデフォルトで優先度127、PTPスレーブとして設定されている場合は優先度255を使用します。

Auto-Unicast feature

冗長ストリームでは Auto-Unicast はサポートされていません(ST2022-7)。

Auto-Unicast 機能は Merging Technologies 社の RAVENNA/AES67 デバイス専用であり、以下のバージョンからサポートされています。

- Horus - Hapi : firmware v3.9.2
- Anubis : firmware v1.0
- MassCore : Pyramix v12.0 / Ovation v8.0
- Ravenna ASIO : v12.0
- Merging Audio Device : v1.0
- ALSA : v1.0
- CoreAudio / Virtual Audio Device : v2.0.40016

Connections Color Convention

-  白: 物理的な接続
-  黄色: 物理入力から Source へ
-  ターコイズ: Sink から物理出力へ
-  カーキ: Source から Sink へ

Session Sources error codes

-99: Unable to add the Stream (ストリームを追加できません)

ストリームの最大数に達したか、デバイスが Merging ASIO の場合は開始されていません。

Horus-Hapi : ストリームの最大数は 32 入力、32 出力 - ASIO クロックの数です。

Anubis - Hapi MKII - ZMAN : ストリームの最大数は 64 入力、64 出力 - ASIO クロックの数です。

-100: Channels mapped to unexisting input (存在しない入力にマッピングされたチャンネル)

要求された入力チャンネルが使用できません。これは、サンプリング レートに応じてチャンネルの数が異なるモジュールで発生する可能性があります。

-101: Channels must be mapped contiguously (チャンネルは連続してマッピングする必要があります)

チャンネル マッピングは、1-2-3-4... のように連続している必要があり、1-3-7-8 のように連続してはなりません。

-102: All channels must be mapped (すべてのチャンネルをマッピングする必要があります)

選択した IO のすべてのチャンネルを使用する必要があります (通常 8 チャンネル)。

-103: IO not available(IO が使用できません)

要求された IO が使用できなくなりました。例: AD カードが取り外されているか、現在のサンプリング レート / オーディオ データ フォーマット (DXD/DSD) では利用できません。

-104: Address collision(アドレスの衝突)

アドレスは既に別のソースで使用されています。

--105: Address undefined(アドレスが定義されていません)

アドレスが欠落しているか、正しく記述されていません。

-106: Invalid Codec(無効なコーデック)

コーデックが欠落しているか、選択した IO と互換性がありません。

-107: Channels mapped to unexisting output(存在しない出力にマッピングされたチャンネル)

要求された出力チャンネルが利用できません。これは、サンプリング レートに応じてチャンネル数が異なるモジュールで発生する可能性があります。

-109: IO with mixed audio data format(オーディオ データ フォーマットが混在する)

要求されたモジュールに接続されている異なるストリーム間で、コーデック / データ フォーマットは同じである必要があります。

-110: Requires two media port(2 つのメディア ポートが必要)

1つのメディアポートを持つシステムで、2 つのメディア ポートを必要とするソースを作成しています (これは、スイッチ モードのシステムで ST2022-7 プリセットを再ロードする場合に発生する可能性があります)。

-111: mDNS registration failed(mDNS 登録に失敗しました)

デバイスがソースを Bonjour サービスとして広告できませんでした。

Session Sinks error codes

-1: Internal error(内部エラー)

不明なエラー

-10: Unknown RTSP error(不明な RTSP エラー)

RTSP でエラーが発生しました。

-19: Sample rate does not match(サンプリング レートが一致しません) : Source のサンプリング レートがデバイスのサンプリング レートと一致しません。

-20: Channel count does not match(チャンネル カウントが一致しません)

ソースのチャンネル数がシンクのチャンネル数と一致しません。代わりに、同じチャンネル数を設定するには、[緩和チェック - チャンネル カウントが少ないソースを受け入れる] オプションを使用できます。

-21: SDP: clock domain or GMID does not match(クロックドメインまたは GMID が一致しません)

ソース SDP で説明されている PTP ドメインがデバイスの PTP ドメインと一致しません。

- 22: SDP: payload does not match(SDP ペイロードが一致しません)

Source SDP で説明されているペイロード タイプが Sink ペイロード タイプと一致しません。

-23:SDP: connection (c=) missing (SDP: 接続 (c=) がありません)

マルチキャスト宛先 IP が Source SDP で説明されていません

-30:Channel map collision (チャンネル マップの衝突)

IO / チャンネルは既に別の Source に接続されています。

-93:HTTP: retrieving SDP error (HTTP: SDP 取得エラー)

Source SDP を取得できません (HTTP 経由)

-94:RTSP: unicast source unavailable (RTSP: ユニキャスト ソースが利用できません)

(NADAC ASIO/CoreAudio のユニキャスト ソースは Horus/Hapi でサポートされていません) AutoUnicast モード: 現在のシンクがソースに必要なポートを提供していません。AutoUnicast は Merging Technologies デバイスのみと互換性があることに注意してください。

-95:SDP: unicast address doesn't match (SDP: ユニキャスト アドレスが一致しません)

ユニキャスト モード。SDP のユニキャスト アドレスが受信側のアドレスと一致しません。

-96:RTSP: retrieving SDP error (firewall?) (TSP: SDP 取得エラー (ファイアウォール?))

Source SDP を取得できません (RTSP 経由)

-97:SDP: parsing error (SDP: 解析エラー)

SDP が正しく記述されていません。フォーマットを確認してください。

-98:Unable to add the Stream (ストリームを追加できません)

ストリームの最大数に達したか、デバイスが Merging ASIO の場合は起動されていません。ストリームの最大数は、入力32、出力32です。これはASIOクロックの数と同じです。

-99:SDP: Source not properly configured (SDP: ソースが正しく構成されていません)

Source がSDPで正しく記述されていません。

-100:Channels must be mapped contiguously (チャンネルは連続してマッピングする必要があります)

チャンネルマッピングは連続している必要があります、1-2-3-4...のように、1-3-7-8であってはなりません。

-101:All channels must be mapped (すべてのチャンネルをマッピングする必要があります)

選択したIOのすべてのチャンネルを使用する必要があります (通常8チャンネル)

- 102:All channels must be mapped (IOが利用できません)

要求されたIOが利用できなくなりました。例: DAカードが取り外されたか、現在のサンプリングレート/オーディオデータ形式 (DXD/DSD) で利用できません

-103:Channel mapped to unexisting output (チャンネルが存在しない出力にマッピングされています)

要求された出力チャンネルが利用できません。これは、サンプリング レートによってチャンネル数が異なるモジュールで発生する可能性があります。デバイス ルーティング メニューで、必要な IO が Ravenna (Horus/Hapi) または Unrouted (Zman、Anubis、Hapi MKII) に設定されていることも確認してください。

-104:Invalid Codec (無効なコーデック)

コーデックが見つからないか、選択した IO と互換性がありません。

-105:Channel map not supported (チャンネル マップがサポートされていません)

選択した IO では、チャンネル数 / チャンネル マッピングがサポートされていません。選択したデバイス / IO によっては、チャンネル カウントを 8 に設定した場合のみサポートされます。

-106: Channels mapped to an already used input (既に使用されている入力にマッピングされたチャンネル)

選択した IO は既に別のソースに接続されています。

-107: Channels mapped to an already used input (存在しない入力にマッピングされたチャンネル)

要求された入力チャンネルが利用できません。これは、サンプリング レートによってチャンネル数が異なるモジュールで発生する可能性があります。デバイス ルーティング メニューで、必要な IO が Ravenna (Horus/Hapi) または Unrouted (Zman、Anubis、Hapi MKII) に設定されていることも確認してください。

- 109: SDP: port number not supported (SDP: ポート番号がサポートされていません)

RTP ポートが標準に準拠していないため拒否されます。1024 未満または 32766 を超える (マルチキャストのみ)。

-110: MDNS_support_not_available (MDNS (bonjour) が利用できません)

SDP を手動で指定する必要があります。

- 111: SDP: transport not supported (SDP: トランスポートがサポートされていません)

RTP/AVP の説明にエラーがあります。

Incoming/outgoing RTP range 受信/送信 RTP 範囲

- アドレス: unicast + multicast range [225..239].x.x.[0..254]
- マルチキャストポート範囲: 1024~65535 (ファームウェア Horus/Hapi 3.12.5, ZMAN ベース製品 (Anubis、HapiMkII、ZOEM) 1.5.2, ソフトウェア製品 VAD 3.2.7, MAD 2.2.8, MassCore 14.1 以降)
ユニキャストポート範囲: 1024~32767
- 奇数 RTP ポート
Horus/Hapi ファームウェア 3.11.2.52601 以降でサポートされています。
ZMAN ベースの製品 (Anubis、HapiMkII、ZOEM) ファームウェア 1.4.4.52601
Merging Audio Device v2.2.2.52601
Merging RAVENNA AES67 VAD v3.2.2.52601 以降
でサポートされています。
MassCore では現在サポートされていません。